

4. 刊行物・主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4. 1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム”J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

平成 27 年度は第 66 巻を発刊し、次の論文を掲載した。



第 66 巻

- ・武藤大介, 勝間田明男: 長周期地震動と地盤構造との関係について
- ・坪井一寛, 松枝秀和, 澤 庸介, 丹羽洋介, 高橋正臣, 高辻慎也, 川崎照夫, 下坂琢哉, 渡邊卓朗, 加藤健次: Scale and stability of methane standard gas in JMA and comparison with MRI standard gas

気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

平成 27 年度は第 73~76 巻を発刊した。



第 73 巻 「気象研究所非静力学地域気候モデルによる日本付近の将来気候変化予測について」

(佐々木秀孝, 村田昭彦, 川瀬宏明, 花房瑞樹, 野坂真也, 大泉三津夫, 水田亮, 青柳曉典, 志藤文武, 石原幸司)

第 74 巻 「新型自己浮上式海底水圧計の開発」

(平田賢治, 山崎明, 対馬弘晃)

第 75 巻 「2012 年・2013 年に日本に接近・上陸した台風の概要と特性」

(北島尚子, 小山亮, 嶋田宇大, 櫻木智明, 沢田雅洋)

4. 刊行物・主催会議等

4.1. 刊行物

4.2. 発表会・主催会議等

第76巻「WMO福島第一原発事故に関する気象解析技術タスクチーム活動と気象研究所の大気拡散モデリング」

(斉藤和雄, 新堀敏基, R. Draxler, 原旅人, 豊田英司, 本田有機, 永田和彦, 藤田司, 坂本雅巳, 加藤輝之, 梶野瑞王, 関山剛, 田中泰宙, 眞木貴史, 寺田宏明, 茅野政道, 岩崎俊樹, M. C. Hort, S. J. Leadbetter, G. Wotawa, D. Arnold, C. Maurer, A. Malo, R. Servranckx, P. Chen)

4. 2. 発表会・主催会議等

・気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年1回開催している。平成27年度は、平成28年3月24日(木)に一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・気象研究所での気候変動研究概要
報告者：蒲地政文 (研究総務官)
- ・気候変動予測研究の過去・現在・未来
報告者：尾瀬智昭 (気候研究部 部長)
- ・温暖化予測情報をどう使うか？
報告者：高薮 出 (環境・応用気象研究部 部長)
- ・エルニーニョなどの海洋の変化を予測するために
報告者：山中吾郎 (海洋・地球化学研究部 室長)
- ・成層圏の変動の気候への影響について
報告者：黒田友二 (気候研究部 室長)

・第13回環境研究シンポジウム「2050年の地球と暮らし ―環境技術と地球規模課題―」

「環境研究シンポジウム」は、気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する公開シンポジウムで、毎年、決まったテーマの下で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。平成27年度は平成27年11月10日(火)に一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)において開催され、気象研究所は以下の講演及びポスター発表を行った。

【講演】

講演名：地域的な気候の変化をどうやって求めるか？

講演者：高薮 出 (環境・応用気象研究部 部長)

【ポスター発表】

- ① 新世代の気象衛星ひまわり8号と高頻度観測データを用いた同化実験
- ② 地球システムモデルにおける積雪モデルの精緻化と北極圏等への影響の研究
- ③ 地球温暖化による熱帯低気圧の発生数と強度分布の変化

- ④ 気象研構内における長期地上気象観測と地表面エネルギー輸送
- ⑤ 都市積雪モデルの導入による冬の都市気候の再現性向上
- ⑥ 気象レーダーで見た火山噴火と新しい降灰予報
- ⑦ 過去 30 年の黒潮や親潮の詳細な再現
～北西太平洋域高解像度海洋長期再解析データの作成～
- ⑧ 進行する海の酸性化 ～西部北太平洋の長期観測から～